



むらさきしきぶ

紫式部は、どんな人だったの



豊かな教養をもち、^{ちゅうぐう づ}中宮付きの^{にようぼう}女房をつとめながら、「源氏物語」を書いた才女だよ。

「紫式部」とは、宮中でのよび名（^{にようぼうめい}女房名）で、本名はわかりません。紫は「源氏物語」の登場人物「^{むらさき}紫の^{うえ}上」から、式部は父のかつての官職の^{しきぶのじょう}式部丞からきたものです。生まれた年は、970年、973年などの説があります。父の^{ふじわらのため}藤原為時^{とき}は学者・詩人で、母は早く^な亡くなりました。姉一人と兄一人がいます。

夫と死別後、「源氏物語」を書き始めた

996年、^{えちぜんのかみ}越前守になった父とともに、^{たけふ}武生（福井県武生市）に行きました。998年に京都に帰り、^{ふじわらののぶたか}藤原宣孝と^{けっこん}結婚して、^{よくねん}翌年、娘の^{けんし}賢子を生みました。1001年の夏に、宣孝が亡くなり、秋ごろから、「源氏物語」を書き始めました。

中宮付きの女房をつとめながら、「源氏物語」を完成した

1005年ごろの年末、^{ふじわらのみちなが}藤原道長の娘で、^{いちじょうてんのう}一条天皇の^{ちゅうぐう}中宮（^{こうごう}皇后ではない、天皇のきさき）の^{しょうし}彰子の世話をし、中宮付きの女房としてやとわれました。1010年の夏ごろ、「源氏物語」を完成し、年末までに「紫式部日記」をまとめたようです。その後は、1013年の秋ごろにつとめをやめ、^{よくねん}翌年の春ごろ病死したとする説や、1019年以降に亡くなった、などの説があります。

才女に育ったが、人づき合いを好まなくなっていた

子どものころ、父が^{のぶのり}兄惟規に、中国の歴史書を教えていると、式部のほうが先に覚えてしまいました。父は「この子が男でなかったのが残念だ」といいながら、式部に教育をあたえました。書物を読みあさり、教養の豊かな才女に育ちましたが、しだいに、人づき合いを好まず、なやみが心の中にこもるような性格に変わったようです。宮中のはなやかな生活も、性格に合わず、^{こどく}孤独だったようです。

ことばの意味 女房 宮中に仕える女官（女性の役人）や、貴族に仕える侍女のこと。